

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400146		
法人名	株式会社さくら		
事業所名	グループホーム稗原(さくら)		
所在地	出雲市稗原町1724		
自己評価作成日	令和2年8月20日	評価結果市町村受理日	令和3年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	鳥根県出雲市今市町650		
訪問調査日	令和2年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・利用者様のご家族やお知り合いが来所しやすい雰囲気作りを大切にしています。・企業理念は「共に喜び・共に悲しみ・共に生きる～地元地域に密着した施設づくりをめざします。」です。・地域行事には積極的に参加し、地域の住民との関係を密にします。・料理に力を入れていて全て手作りを提供しています。また、地域の方々からたくさんの野菜を頂いており、旬の食材を普段の食事やおやつに利用しています。・四季に応じて様々なイベントを企画、実施しています。・職員に対し時期に応じて研修を受講させ、より良いケアができるよう努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成18年に設立された株式会社さくらは、19年にグループホームを開所し、居宅介護支援事業所・デイサービスセンターと次々に開所を続けており地域に密着した福祉の拠点としての役割を果たしてきた。更なる飛躍として、障がい者グループホームを2020年12月開設予定でありその準備にも取り組んでいる中で、本年始めからの新型コロナウイルス感染拡大に伴う、対応にも追われ、ホームの利用者、家族にとっては、厳しい生活となっているが、掲げられた理念にたがうことのない、穏やかな楽しい日常がみられる。お出かけや来客を制限した中でも四季折々の食材や近隣からの野菜や果物、また、衛生管理のもと生野菜、刺身等も調理され、すべてが手作りの食卓は楽しみのひとつとなっている。自室から出て自然と集まるホールではそれぞれが居場所に落ち着き、いきいきと過ごしている。運営推進会議や、家族からの意見や提案は活発で、ホームの活動に取り入れられている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識できるように、目につく場所に掲示して共有している。	利用者が主人公であり「共に喜び、共に悲しみ、共に生きる」の理念が実践されている。日中は、二つのユニットが互いに交流しており、会話やふれあいなど孤独にならないにぎやかな暮らしとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校や幼稚園の訪問者が度々あり、交流を深めている。	新型コロナウイルス防止対策のため、面会をはじめ、地域の人々との交流は制限されているが、収束の時は来れば、再び以前のように活発にしてい	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて地域に施設の利用状況、現状等発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し現存の利用者様の普段の様子を確認していただき、施設に対する理解や情報を発信している。	毎回の会議を貴重な場所として認識されている。地域住民からは、ホームの職員体制や行事へのアイデア、さらには、災害時の対応などにも活発な意見が出されており、協力的である。ホームは、意見を取り入れ実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	都度連携を取り、協力関係を築ける様に取り組んでいる。	事業所内で起こった諸問題は都度、市や地域包括支援センターなどに、必要な相談を行っており、利用者が安全に生活できるように支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を都度開催し、情報を共有し検討を行い、身体を拘束しないケアを目指している。身体拘束をしないといけない場合は、ご家族様に説明し、承諾を得る。	一人一人を大切にする個別ケアが行われ、個別の行動パターンを把握して安全の確保をはかっている。予測されるリスクに関しては、その都度家族に報告相談を行い、抑圧感のない自由な暮らしを支援できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内でも日頃より研修を行い、学ぶ機会を持ち情報を共有し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外にて研修できる機会を持ち活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所また改定時には説明の機会をしっかりと設け、疑問に思われる所も随時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や希望があれば話し合いを行い、改善に努めている。	利用者からの要望にも真摯に受け止め、対応されている。家族の意見にも適切に対応している。職員の名前をわかりやすくしてほしいという要望には写真と氏名をパネルにして、掲示する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度カンファレンスや会議等、情報共有のノートなどを活用し意見を取り入れる。	「気づきノート」が活用され、職員会議や毎日の話し合いの中でも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持ち、生き活きと働けるような環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修や外部より講師の方を招いて研修を行いまたは、地域のセミナー等に参加し学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市などのグループホーム協会に参加するなどの機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時等にご本人様、ご家族様よりお話、要望等を詳しく聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時にご家族様の要望をしっかりと傾聴し信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様、ケアマネ等より情報を収集し必要な支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中において、出来る所は一緒に行うように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を密にとり、受診等を協力しながら行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来所されやすい雰囲気づくりを行っている。	コロナウィルス防止対策までは、これまで大切にしてきた地元の知人が訪問したり、行きつけの美容室に通ったり、墓参りや自分の家の花を見に行ったり、利用者の希望に沿った支援がなされている。ほとんどの家族が頻繁にホームを訪れていた。収束を見れば再開するつもりだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、必要に応じて話し合いを行い円滑に関わり合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関係性を大切に柔軟に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様との日々の生活の中等から情報を集め、また必要に応じてご家族様からも情報を把握し検討している。	日常生活の会話の中で利用者の希望を聞いたり、家族からの情報や意見の中から希望や意向を把握するよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や情報提供書等を参考にし、日常生活の中よりも情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活スタイルを把握し、気づいた事を共有し検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のカンファレンス等で日々の気づきを共有し、ご家族様や関係のある方に話を伺い会議を行い、計画を作成している。	1日に1回は引き継ぎ時に、意見をだして、話し合う場を設けている。スタッフ全体で話し合い、本人の意向にあった介護計画書をつくり、日々の様子を記録した上で毎月モニタリングを行っている。現状に即した介護計画が作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人ひとり個別の記録を作り職員間で共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の要望があれば、話し合いを行い、出来るだけ要望にそった支援を行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われているミニディサービスでの交流会等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医と協力して日々の体調管理を行い、必要に応じて他の医療機関も受信できるようにしている。	利用者や家族が望む医療機関を受診できるよう状況に応じて支援している。今後は往診体制も取り入れていく。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状況を協力医院の看護師に相談し、支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院等から日々情報を集め退院時にはカンファレンス等に参加し関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族、医師と話し合いを行い、出来るだけ要望にそえる支援を行っている。	本人や家族の意志を尊重して、医師、職員の連携のもと、安心した最期を迎えられるように終末期ケアも行われている。職員の貴重な経験は、更に一人一人を大切にする向上の機会にもなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル以外に地域で行われる救命講習等に積極的参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行いそのことを踏まえ消防等に相談をし、実施している。	定期的訓練を行い、手順の徹底的な確認を行っている。非難を想定して、再度建物内の危険な物の見直しもしている。災害時の地域住民との協力体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関して、施設でも研修を行い知識を深めている。	利用者さんは、昼食の献立が気に入り廊下を通してオープンキッチンに聞ききたところ優しく応対し、納得してまたホールに戻った。など、その方が納得できるようにケアしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人様の意思や希望を話しやすい環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、人それぞれのその日の思いに添って時間や予定を調節した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様と一緒に衣類等を決めたり、希望される事が散髪であれば、美容師さんに来所してもらったりなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中で、何か食べたいと希望があればなるべく提供できる様にしている。食事の準備・片付けなどは無理なくできる方に手伝っていただいている。	食事づくりは、畑で収穫したものや地域住民からの旬の食材の差し入れなど、食べることにまつわり、ホーム内だけでなく、地域を巻き込んだ協力体制が築かれ、利用者は毎日の食卓を楽しみしている。今後は献立の記録を家族にもお知らせしていく。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を毎回確認し、職員で共有している。1人ひとりの食事量をその方にあった形で、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人様が自分でできる事は、自力で行ってもらいまた、一人ひとりのにあった形で、介助を行うケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的トイレ誘導を行い、出来るだけトイレに行く習慣をつけ自立にむけ支援している。	トイレでの排泄を心がけており、それぞれの利用者さんの排泄パターンにあわせた誘導がおこなわれている。トイレは、掃除や消毒が行き届いており、常に清潔に保たれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫や日頃運動を行い、便秘時には医師等に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴表を作り入浴をしているがご本人様の気分によっては日をずらしたり個々に寄り添った支援を行っている。	入浴時間は出来るだけゆっくりを大切にしている。 2日に1回入浴をされるが、希望があればいつでも入浴できる体制である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ無理なく休んでいただき、眠れないときは本を見たり等、その時々に応じて柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された時は、職員で共有し確認を行い体調の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等を確認し、洗濯物をたたんだり仕分けしたり手伝っていただき、季節の行事も行い季節を楽しんでいただける様工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設では外出の行事を行ったりと気分転換をはかり、ご家族様の希望があれば、協力をしながら外出の支援を行っている。	ホームは自然豊かな山間の川沿いに在り、四季折々の風景も楽しめる。利用者は職員に付き添われて、散歩や畑での収穫を楽しむことができる。コロナウィルス感染の収束をみて、以前のように地域の行事にも参加するつもりだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル防止の為、ご本人様での管理は行わないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の都合など、その時の状況に応じ対応している。難しい場合は一緒に何か作業をしたり話を聞き、気分を紛らわしたり等している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や目の付く所に、季節の行事物を掲示したり季節の花を活けたり居心地よく過ごせるように工夫している。	利用者さんはソファや畳、椅子など、自分の気に入った居場所に落ち着いて他の利用者との会話やふれあいを楽しんで過ごすことができる。ホームで育った室内犬がアニマルセラピーとして、癒しや愛着の感情を豊かにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間の中にソファや和室などのスペースがあり、気に入った場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使用していた家具を持ち込まれたり写真等飾ったりと居心地のいい空間で過ごしていただける様工夫している。	居室は、畳敷きに改装されており、座位のたたずまいも落ち着けるようになっている。転倒による衝撃も和らげる効果もあるという。利用者さん方は、ゆっくりと休める個室になっている。家族の面会時などにも、ゆったりと談話できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的に使用するトイレや入浴等はわかりやすく目印をつけたり、居室には大きく名前をはったり飾りをつけたりして。		